

# 池田市埋蔵文化財発掘調査概報

1990年度

1991年3月

池田市教育委員会

## 序 文

池田市は、緑豊かな五月山と雄大な猪名川に育まれ、古代から政治、経済、文化の中心として発達してきました。市内にはこれらのことと物語る多くの文化遺産が伝えられており、中には池田茶臼山古墳、姫三堂古墳、宮の前遺跡など全国にも知れ渡ったものがあります。

私たちはこれら自然と文化遺産を保護、継承し、また、学ぶことによってはじめて、より良い生活環境を追求できるものですが、今日の都市化に伴い、経済を優先させることだけが生活環境の向上につながるという認識が強くなつたために、自然や文化遺産を邪魔物として扱うという事態を招いています。この結果、表面的な生活環境の向上とは逆に、私たちの周りにある自然は大きく変貌し、今まで伝えられ、生活のよりどころとなってきた文化遺産も破壊散逸してきました。

自然も文化遺産も一度破壊されれば二度と復元することはできません。私たちはこのことを十分認識し、保護と継承に努めなければなりません。また、このことが現代に生きるもののが務ではないかと思います。

この報告書は、以上のことを踏まえ、危機に直面している遺跡について、国及び大阪府の補助を受けて実施した発掘調査の概要報告書であります。調査の実施にあたっては、多くの御指導、御助言をいただいた諸先生ならびに関係機関をはじめ、土地所有者、近隣住民の方々には文化財保護に対して格別の御理解と御協力をいただきました。心より感謝と敬意を表し、厚くお礼申し上げます。

平成3年3月

池田市教育委員会  
教育長 片山久男

## 例　　言

1. 本書は、池田市教育委員会が平成2年度国庫補助事業（総額1,000,000円、国庫50%、府費25%として実施した埋蔵文化財緊急発掘調査の概要報告書である。

2. 本年度の調査および期間は下記のとおりである。

|             |                |                |
|-------------|----------------|----------------|
| 宇保・猪名津彦神社古墳 | 池田市宇保町6-1      | 平成2年7月24日～27日  |
| 池田城跡90-1次   | 池田市城山町3441     | 平成2年9月4日～7日    |
| 90-3次       | 池田市建石町3300-1   | 平成3年1月18日～19日  |
| 宮の前遺跡90-4次  | 池田市石橋4丁目309-7  | 平成2年10月17日～19日 |
| 豊島南遺跡5次     | 池田市豊島南1丁目364-3 | 平成3年1月8日～9日    |

3. 調査は、池田市教育委員会教育部社会教育課文化財係が実施し、田上雅剛、中西正和が現地を担当した。

4. 本書の執筆はI、III-1、3、IV、Vを中西、その他を田上が行い、編集は田上が行った。また、本書の製図、遺物実測にあたって村山倫弘の協力を得た。

5. 調査の進行にあたって、施主並びに近隣住民の方々に深甚なる御理解、御協力をいただいた。末筆ではありますが、深く感謝いたします。

## 目 次

|                              |    |
|------------------------------|----|
| I. 歴史的環境 .....               | 1  |
| II. 宇保・猪名津彦神社古墳第1次発掘調査 ..... | 4  |
| III. 池田城跡発掘調査 .....          | 8  |
| 90-1次調査地 .....               | 10 |
| 90-3次調査地 .....               | 11 |
| IV. 宮の前遺跡90-4次発掘調査 .....     | 13 |
| V. 豊島南遺跡第5次発掘調査 .....        | 15 |

## 図 版

図版1 (1) 宇保・猪名津彦神社古墳トレンチ全景（北から）

(2) 同上溝断面

図版2 (1) 池田城跡90-1次調査地

(2) 池田城跡90-3次調査地

図版3 (1) 宮の前遺跡90-4次発掘調査

(2) 豊島南遺跡第5次発掘調査

## 挿 図 目 次

|                           |    |
|---------------------------|----|
| 第1図 遺跡分布図 .....           | 2  |
| <b>宇保・猪名津彦神社古墳第1次発掘調査</b> |    |
| 第2図 調査地位置図 .....          | 4  |
| 第3図 トレンチ位置図 .....         | 5  |
| 第4図 トレンチ平・断面図 .....       | 6  |
| 第5図 出土遺物実測図 .....         | 6  |
| 第6図 出土遺物実測図 .....         | 7  |
| <b>池田城跡発掘調査</b>           |    |
| 第7図 調査地位置図 .....          | 8  |
| <b>90-1次調査地</b>           |    |
| 第8図 90-1次調査地トレンチ位置図 ..... | 9  |
| 第9図 トレンチ平・断面図 .....       | 10 |
| <b>90-3次調査地</b>           |    |
| 第10図 トレンチ位置図 .....        | 11 |
| 第11図 トレンチ平・断面図 .....      | 12 |
| 第12図 出土遺物実測図 .....        | 12 |
| <b>宮の前遺跡90-4次発掘調査</b>     |    |
| 第13図 調査地位置図 .....         | 13 |
| 第14図 トレンチ位置図 .....        | 14 |
| 第15図 トレンチ平・断面図 .....      | 14 |
| <b>豊島南遺跡第5次発掘調査</b>       |    |
| 第16図 調査地位置図 .....         | 15 |
| 第17図 トレンチ位置図 .....        | 16 |
| 第18図 トレンチ平・断面図 .....      | 16 |

## I. 歴史的環境

池田市は、東西4.1km、南北9.2kmを測り、南北に細長い市域を形成している。その位置は大阪平野の北部、丹波山地に源を発する猪名川が北摂を分断して平野部に出たところにある。

地形的に見ると、市内北半分を標高400m前後の北摂山地が占め、その中央部に妙見山を源とする久安寺川によって、木部・古江地区に平野が形成され、その南側に五月山山塊が広がる。また、五月山山塊から南は比較的平坦な台地が広がり、猪名川によってできた沖積平野に続いている。このような自然環境の中で、人々は古くから生活を営み始めていることが近年の発掘調査で明らかになりつつある。現在のところ、市内で旧石器時代から中世に至る遺跡が47カ所知られている。

**旧石器時代** 旧石器時代の遺跡については明確にされていないが、遺物が出土した遺跡としては、伊居太神社参道遺跡と宮の前遺跡がある。伊居太神社参道遺跡は五月山山塊の西端部に位置し、明治年間から石器を中心とする遺物が採取されている。その中に、旧石器時代に比定されるナイフ形石器・尖頭器など6点が含まれていた。また、宮の前遺跡では昭和61年に大阪府教育委員会による発掘調査で、國府型ナイフ形石器が1点出土している。

**縄文時代** 縄文時代の遺跡は現代のところ、五月山山塊と南部の台地に分けられる。五月山山塊部は、上述した伊居太神社参道遺跡のほか、京中遺跡で石器・石匕などが出土し、近隣の畠有舌尖頭器出土遺跡では、サヌカイト製の尖頭器が出土している。また、池田城跡の下層では縄文時代晩期の突帶文土器が出土している。一方、南部の台地では、宮の前遺跡から石棒が、また、豊島南遺跡からは縄文時代後期の土器片が出土している。

**弥生時代** 弥生時代に入ると遺跡数も増している。最も古いものとしては、道路工事の際に前期から後期にいたる土器が出土した五月山北麓の木部遺跡がある。当遺跡は現代まで発掘調査は行われておらず詳細は不明である。中期になると、南方の洪積台地の縁辺部に宮の前遺跡や豊島南遺跡などの大規模な遺跡が現れる。いずれの遺跡も近年の大規模な開発により明らかになりつつあり、宮の前遺跡では、中期前葉から後葉までの竪穴式住居跡や方形周溝墓などが、豊島南遺跡では中期後葉の方形周溝墓が検出されている。後期になると、宮の前遺跡や豊島南遺跡は衰退していく、かわって、鼓ヶ滝遺跡・神田北遺跡・京中遺跡・五月山山頂の高地性集落と考えられる愛宕神社遺跡が出現する。全体的に後期になると集落は各地に散らばり、小規模化していく。

**古墳時代** 市内の前期の古墳として画文帶神獸鏡が出土した円墳の娘三堂古墳と前方後円墳の池田茶臼山古墳があり、共に竪穴式石室を有する。娘三堂古墳は前年度に再調査が行われ、石室については、地震により地滑りしていることが明らかになり、また、埴輪や葺石を有していないことが確認された。一方、池田茶臼山古墳は昭和30年に調査されており、埴輪と葺石が



- |               |                |            |           |             |
|---------------|----------------|------------|-----------|-------------|
| 1. 犀ヶ淵遺跡      | 2. 古江古墳        | 3. 古江北古墳   | 4. 吉田道路   | 5. 古江道路     |
| 6. 木部遺跡       | 7. 本郷1号墳       | 8. 木部2号墳   | 9. 本郷桃山古墳 | 10. 愛宕山神社遺跡 |
| 11. 伊庭太神社参道遺跡 | 12. 制三堂古墳      | 13. 桥三堂南古墳 | 14. 池田城跡  | 15. 池田糸白山古墳 |
| 16. 五月ヶ丘古墳    | 17. 舞塚北遺跡      | 18. 善海1号墳  | 19. 善海2号墳 | 20. 石櫛鹿寺    |
| 21. 新宿西遺跡     | 22. 煙有瓦尖頭器出土所  | 23. 京中遺跡   | 24. 夏湖池遺跡 | 25. 野田塚古墳   |
| 26. 舞塚古墳      | 27. 舞塚南古墳      | 28. 弘摩古墳   | 29. 石櫛古墳  | 30. 二子塚古墳   |
| 31. 稲城守遺跡     | 32. 宇都御名津彦神社古墳 | 33. 宇都遺跡   | 34. 神田北遺跡 | 35. 舞摩古墳    |
| 36. 門田遺跡      | 37. 神田南遺跡      | 38. 天神遺跡   | 39. 豊島南遺跡 | 40. 住吉宮の御遺跡 |
| 41. 宮の前遺跡     | 42. 鹿瀬山古墳      |            |           |             |

第1図 遺跡分布図

確認され、また、墳丘のくびれ部と後円墳部で2基の埴輪円筒棺が検出されている。中期では、高塚式の古墳は見られなくなり、かわって宮の前遺跡と豊島南遺跡で低墳丘古墳が出現する。後期には善海1・2号墳、木部1・2号墳、木部桃山古墳、五月ヶ丘古墳などの小規模な横穴式石室を主体とする古墳が単独、あるいは2～3基を一単位として分布している。しかし、こうした小規模な古墳の中にあって、巨大な横穴式石室を有する鉢塚古墳や前方後円墳の二子塚古墳は、その内容で他を卓越している。

**歴史時代** 寺院跡として、白鳳・天平時代の瓦が採取された石積庵寺や応仁の乱によって焼亡したとされる禅城寺遺跡がある。また、集落跡では、西国街道沿いに位置する宮の前遺跡や豊島南遺跡で奈良時代の掘立柱建物跡が検出されており、郡衙的な役割を担う建物と推定される。古代末から中世にかけては、後白河院領として虫庭荘の開発が推進され、後白河院から離れた後も勢力を保ちつつ当地域の政治、文化交流の中心地として栄える。しかし、京町時代以降、国人池田氏の台頭により衰退し、池田氏の居館である池田城が政治、文化の中心になる。池田城跡は五月山南麓の台地上に位置し、推定で東西約330m、南北550mを測り、その主郭部は現代でも空堀や土塁が良好に残る。昭和43・44に一部調査が行われた際、礎石を伴う建物跡や枯山水様の庭園跡が検出され、池田氏の繁栄を窺わせる遺構として重視される。平成元年から実施されている主郭部の調査では、虎口や小規模ながら石垣を確認し、中世城郭から近世城郭への過渡期の城郭として位置付けできる可能性が出てきた。

#### 参考文献

- 宮田好久「考古学上に現れた池田」「新版池田市史概説」 1971年  
橋高和明「原始・古代の池田」池田市立池田中学校地歴部 1985年

## II. 宇保・猪名津彦神社古墳第1次発掘調査

### 1. はじめに

池田市宇保町には、こんもりと樹木に覆われた神社がある。猪名津彦神社である。この神社の敷地内には巨石がみられ、古くからその場所には古墳があつて巨石は古墳の石室のものと言われている。事実、同町には、慶長17年に発掘がなされたという記録が残されているとのことである。記録の信憑性はともかくとして、当神社が元は古墳であったにしても殆ど墳丘と捉え得る形跡はなく、敷地内にある巨石が唯一古墳の存在していた可能性を示している。

### 2. 位置と周辺の遺跡

宇保・猪名津彦神社古墳は池田市宇保町1丁目3561番地付近に所在したと考えられ、その位置は、現在の阪急池田駅より東南へ500mの地点である。本墳は北摂山地から南方へ発達した標高20~30mの台地西縁辺部に立地している。この台地は比較的起伏が緩やかで、西側は猪名川の氾濫原、東側および南側は氾濫の著しかった箕面川によって囲まれている。こうした自然環境に因り、縄文時代から中世に亘る遺跡が営まれており、特に、本墳の所在する西縁辺部に集中している。

本墳の南には縄文時代から中世に亘る神田北遺跡がある。この遺跡では縄文時代に比定され



第2図 調査地位置図

る石匙、石鏃が採集され、発掘調査によつて弥生時代後期の竪穴式住居跡や中世の掘立柱建物跡を確認している。神田北遺跡の西側には古墳時代後期の土坑が検出された門田遺跡があり、須恵器、土師器が出土している。また、本墳の北側には中世において池田の中心地であった呉庭荘の菩提寺である禪城寺遺跡が所在している。

### 3. 調査の概要

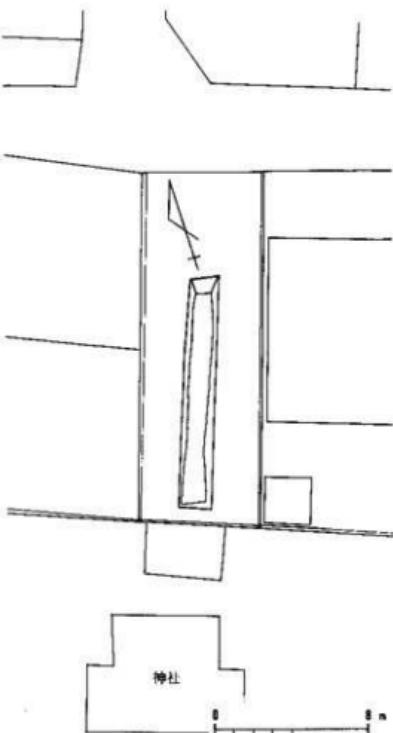
調査地は、池田市宇保町1丁目6に所在し、猪名津彦神社の北側に隣接する。個人住宅に伴う立ち会い調査の結果、須恵器を含む砂礫層を確認したため、遺構の状況を確認するため、幅1.5m、長さ12mのトレンチを敷地中央部に設定して調査を行った。

調査は、盛土を機械掘削で除去し、それより下は人力による手振りで行った。その結果、盛土下は直接地山となり、トレンチのほぼ中央で溝を検出した。

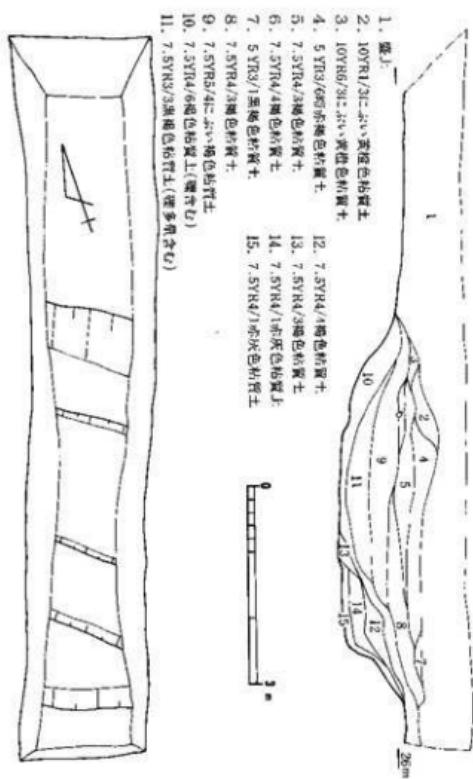
溝は、ほぼ東西に走行するもので、幅6m、深さは最深部で1mを測る。その底面は幅2mの平坦な面となり、北側は緩やかに立ち上がる。一方、南側は底面から約50°の角度で高さ30cmほど急激に立ち上がって、その上は緩やかになっている。埋土は、溝内全体に褐色粘質土が堆積した後、10~20cm大の礫を多量に含む黒褐色粘質土が堆積している。この埋土内には弥生七器や須恵器が多量に含まれており、礫と遺物と一緒に流れ込んだ状況を呈していた。黒褐色粘質土の上に須恵器を少量含む鈍い褐色粘質土が堆積して、この溝がほぼ埋没している。その上には土師器片を少量含む褐色粘質土が堆積しているが、北側は盛土が施される際に攪乱されたためか失われている。

上述した溝は、古墳の周濠と推定することも可能ではある。仮に、古墳の周濠とした場合、神社敷地中央部と溝底面と南側立ち上がりの変換点との距離はほぼ15mとなり、径約30mの規模を有するものと言えるが、トレンチによってその一部を検出したに過ぎず、その平面形態が明らかでない現段階では即断は控え、今後の調査に期したいと考える。

### 4. 出土遺物



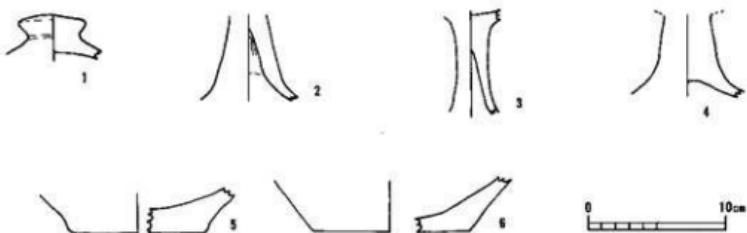
第3図 トレンチ位置図



第4図 トレンチ平・断面図

る。いずれも摩滅が著しく調整は不明である。

**須恵器** コンテナ 2 箱分出土しているがすべて細片化しており、図化したのは 8 点のみであ



第5図 出土遺物実測図

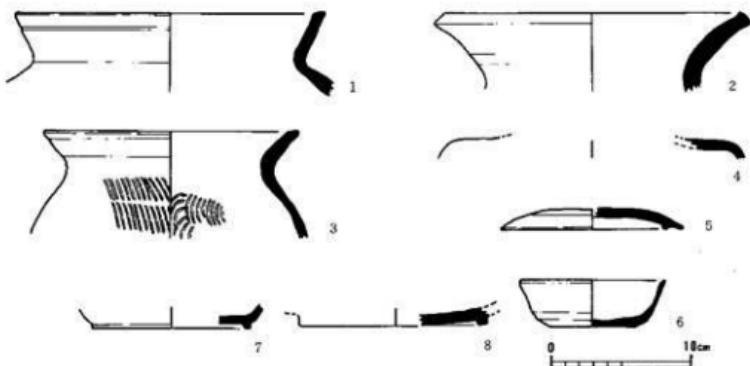
本調査地の遺物は、上述した溝の跡を多量に含む黒褐色粘質土から出土した。その大半は須恵器で、弥生土器が少量含まれている。

**弥生土器** すべて細片化しており、全形を窺えるものはない。

(1)は蓋と思われる。径4.6cm のつまみが取り付けられ、頂部は弯曲する。摩滅が著しく調整は不明である。

(2)～(4)は高杯の脚部である。いずれも摩滅が著しく調整は不明である。(2)は中空のもので、外方へ開いた脚部から更に裾部が屈曲して開くものと思われる。内面には絞り痕が認められる。(3)は中空の細いものである。(4)は中央で、裾部は大きく開いている。やや寸詰まりの形態である。

(5)、(6)は蓋の底部と思われ



第6図 出土遺物実測図

る。掲載したもの以外では鍋の把手とおもわれるものがある。

(1)は短い口縁部がとりつく壺である。口縁部外面には一条の沈線が巡る。口縁端部は内傾する面をもつ。

(2)は外面へ大きく開く口縁部をもつ。また、その端部は上方へつまみあげ気味に仕上げられ、外傾する面となる。内外面とも回転ナデが顕著に残る。

(3)は肩部からなだらかに屈曲し、短めの口縁部のつく壺と思われる。口縁部は平坦面をもち、内外面とも回転ナデが顕著に残る。肩部から体部の外面にはタタキが、内面には同心円文がみられる。

(4)は肩部のみ残存する。ほぼ平坦となるものであるが、器種は不明である。

(5)(6)は杯蓋と杯身である。(5)の杯蓋は推定口径11cmを測り、短いかえりが付く。(6)は全形を窺うことのできる杯身で、推定口径10.6cm器高3.4cmを測る。外面の頂部からほぼ半分まで回転ヘラケズリが施される。

(7)、(8)杯身の底部である。(7)は推定口径11cmで、高台は断面方形である。(8)は推定口径13.6cmを測る。底部中央部は地面に接しており、歪んでいるものと思われる。

宇保猪名津彦神社古墳の北隣には呉庭莊とかかわりのある禪城寺遺跡があり、本墳の周辺にも中世の遺構、遺物が広がっているものと予測された。しかし、今回の調査では弥生時代後期を主とする遺物がみられ、南にある神田北遺跡とは異なる弥生時代後期の集落が存在している可能性が強くなった。

須恵器については、多少混在しているものの、主に7世紀代のものが出土している。しかし、今回の調査で検出した溝が本墳に伴うものか判然としないため、これらの遺物をもって本墳の時期と即断することはできない。

### III. 池田城跡発掘調査

1. はじめに

池田城跡は、池田市域山町、建石町一帯に位置する中世城郭で、五月山から張り出した標高約50mの台地に立地する。そこからは、旧池田村を眼下にでき、また、丹波山地から大阪湾に流れ込む猪名川、京から西国へ通じる西国街道、大阪から能勢地方へ通じる能勢街道も一望でき、当時の交通の要衝に適地されている。

城郭の北側は、五月山より西へ流れる枕ヶ谷川によって形成された開析谷、西側には、台地と平野部との境界に約10mにも及ぶ段丘崖が形成されており、このような自然地形を最大限利用して池田城は築城されている。

池田城の正確な築城年代は明らかではないが、建武年間、池田教依が築いたとされ、その後、山名氏清の乱や応仁の乱などの戦功で領土を増やしていくとともに、高利貸経営をも行い繁栄を極める。戦国時代に入ると、織田信長の攝津支配のため永禄11年(1568)に池田城が攻められ、その結果、池田勝正は信長に屈したが、和田氏、伊丹氏と共に摂津守護職に任じられ所領安堵を得た。しかし、徐々に勢力を増して来た家臣の荒木村重によって城を奪われ、天正2年(1574)村重は伊丹氏を倒し、池田城を引き上げ伊丹城に入城している。

池田城跡は、現在、主郭部東側に土塁と堀が良好に残っているが、城郭全体の構造は明らかではない。しかし、近

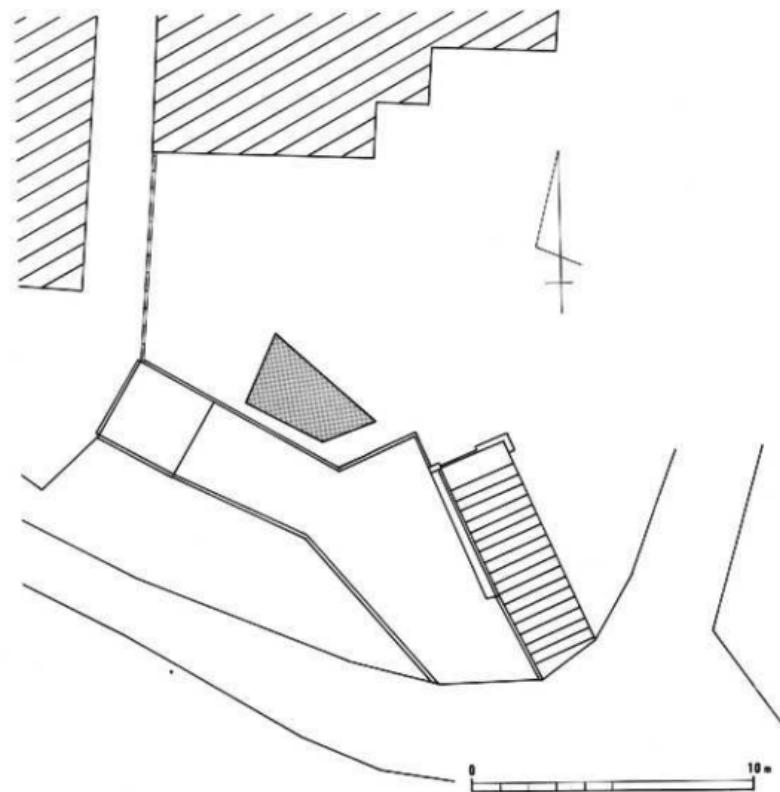


### 第7図 調査地位置図

年の発掘調査でその構造が少しづつであるが解明しつつある。昭和43・44年に主郭部の一部が調査され、建物跡に伴う礎石、中世城郭では珍しい枯山水様の庭園跡や落城に伴う焼土などが、また、平成元年・2年に実施された調査では、虎口、排水のための暗渠や小規模ながら石垣が検出され、池田氏の繁栄を窺わせるとともに、中世城郭から近世城郭の移り変わりを示す城郭として重視される。一方、主郭南約100mの位置に大手門が存在することや土塁や空堀の存在が確認されており、城域については、現在のところ東西330m、南北550mを推定される。

参考文献

横高和明 「原始・古代の池田」池田市立池田中学校地図部 1985



第8図 90-1次調査地トレンチ位置図

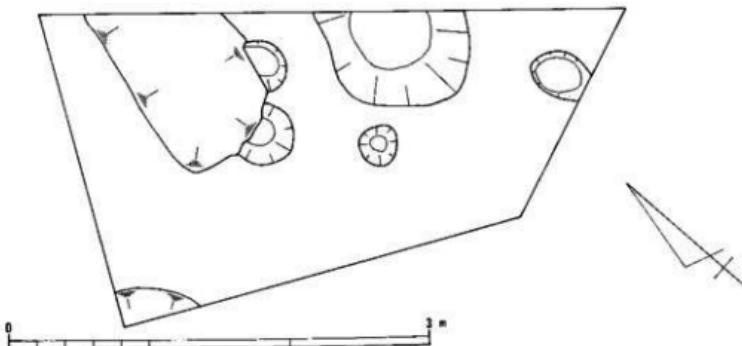
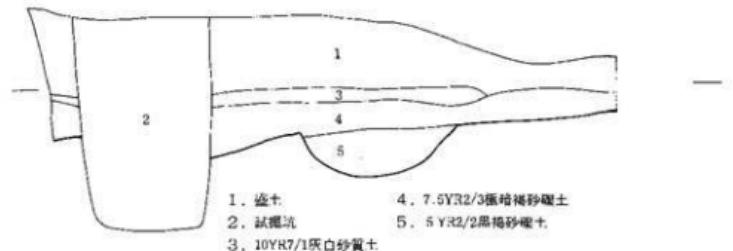
## 2. 90-1 次調査地

### (1) はじめに

調査地は、池田市城山町3441であり、主郭の北側に接する。個人住宅の増築に伴う立ち会い調査の結果、池田城跡一帯に広がる黒褐色砂礫土を確認した。この住宅は半地下の駐車場が伴うことから、事業関係者と協議の上、増築予定地のなかで既に駐車場によって深く掘削されている箇所を除き、北側の全く手をつけられていない箇所を広げることにした。よって、調査面積は8m<sup>2</sup>と小規模なものとなった。

### (2) 調査の概要

調査地の基本層序は4層からなる。このうち第1層は現代の建築に伴う整地土である。第2層は灰白色砂質土で、第1層と同じく現代の建築に伴う整地土と思われる。第3層は黒褐色砂礫土で、上述したように池田城跡一帯に認められる土層で、現在、池田城跡の包含層と考えているものである。第4層は茶褐色砂礫土の地山である。遺構は地表面において検出し、第3層では認められなかった。



第9図 トレンチ平・断面図

検出した遺構は柱穴と考えられるピットや土坑である。ピットは直径20cmほどのものであるが、調査面積が狭いため、掘立柱建物跡か柵跡かは不明である。また、本調査地内から出土した遺物は、細片化した土師器が微量あるのみで、時期を明確することはできない。なお、地山および第3層は南側へ若干傾斜をしている。

上述したように、本調査地は主郭の北隣にあり、現在、主郭の北側にはほぼ垂直に掘削されて道になっている。4mと非常に狭いもので、堀跡とは考えるには不自然である。主郭の調査では、北側に土塁が築かれていたことが判明しており、また、第3層とした黒褐色砂質土は主郭では存在していないことから、本調査地は主郭外に当たり、主郭とは堀ではなく土塁によって区別されていたと考えられる。

### 3. 90-3次調査地

#### (1) はじめに

調査地は池田市建石町3300-1に所在し、個人住宅の増築に伴う事前調査として実施した。本調査地は能勢街道のすぐ南側に位置し、この周辺は大規模な調査が行われておらず、曲輪の性格や建物の配置が不明確な場所である。

#### (2) 調査の概要

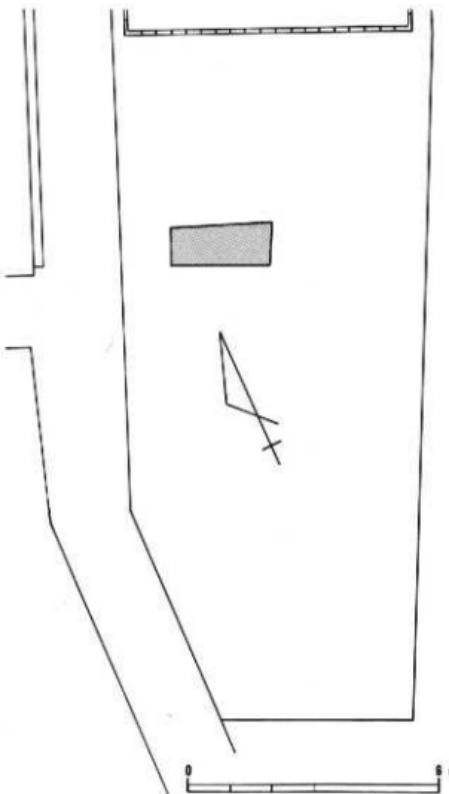
層序は4層からなる。第1層は盛土、第2層は近代遺物を含む黒褐色粘質土、第3層は暗褐色粘質土、第4層は礫を含む暗褐色粘質土の地山である。

**検出遺構** 地山面から土坑を検出したが、中央部に擾乱があり、性格などは不明である。また、出土遺物がなく、時期も判断し難い。

**出土遺物** 第2層から近代遺物に混じって軒丸瓦と土師皿が出土した。

#### 軒丸瓦 (1)

下半部3分の1ほどしか残存していない。復元径12.5cmで、三巴文の



第10図 トレンチ位置図

尾は長く、内区の闊線を作っている。

その回りに珠文が11個付される。

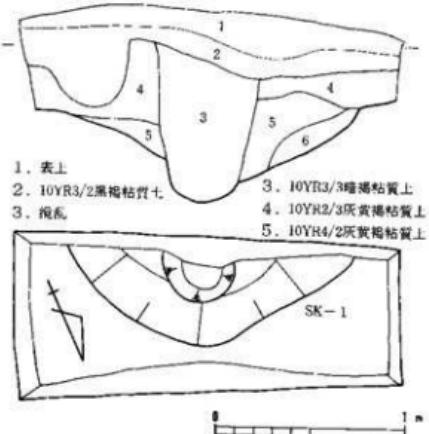
土師皿 (2)

口縁部の4分の1程しか残存して

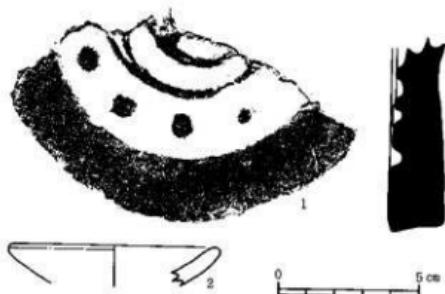
おらず、詳細については不明である。

内外面ともに丁寧なヨコナデが認め

られ、胎土は精良である。



第11図 トレンチ平・断面図



第12図 出土遺物実測図

## IV. 宮の前遺跡90-4次発掘調査

### 1. はじめに

宮の前遺跡は、池田市石橋4丁目・住吉2丁目・豊中市螢池北町一帯に広がる弥生時代から中世まで営まれた複合遺跡で、猪名川によって形成された河岸段丘面に位置し、特兼山より西に伸びた標高約30mの台地上に立地している。

周辺の遺跡として、西方に弥生土器や須恵器等が採集された住吉宮の前遺跡、弥生時代中期の方形周溝墓等が検出された豊島南遺跡があり、東方には、高地性集落と考えられる特兼山遺跡、古墳時代から奈良時代にかけて、須恵器や瓦を生産した桜井谷古窯跡群が広がり、また、南方には、当遺跡と同一の性格を有する螢池北遺跡がある。

当遺跡は、昭和の初頭頃から地元の人々や学生により、石器や土器が採集され、世に知られるようになったが、その後、本格的な調査は行われず、開発の成されるままであった。しかし、昭和43年、中国縦貫自動車道建設の際に調査が行われ、その結果、弥生時代中期の方形周溝墓が20基の他、同時代の土壙墓、木棺墓、堅穴式住居跡、古墳時代の堅穴式住居跡、低墳丘墓、奈良時代の掘立柱建物跡、井戸、平安時代以降の掘立柱建物跡等が確認され、当時、検出例が少なかった方形周溝墓が多数検出された遺跡として、また、墓域と居住域が同時に把握できる



第13図 調査地位置図

遺跡として注目された。

最近の調査の成果として、昭和61年の大坂府教育委員会による調査で、国府型ナイフ形石器が出土しており、当遺跡が旧石器時代から継続している可能性も推測できる。

## 2. 調査の概要

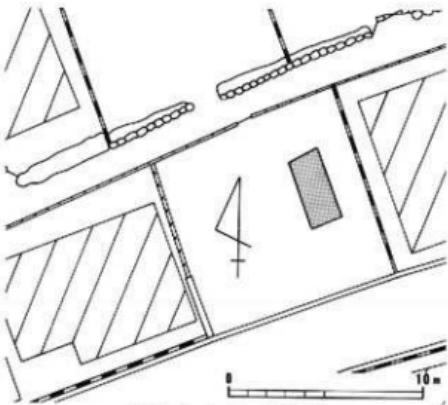
調査地は池田市石橋4丁目309-7所在し、個人住宅の増築に伴う事前調査として実施した。層序は6層からなる。第1層は盛土、第2層は耕作土、第3層は上層に伴う床土、第4層は暗褐粘質土、第5層は黒褐粘質土、第6層にはぶい黄粘質土の地山である。

検出した遺構は、ビット3基と土坑(SK-1)1基である。

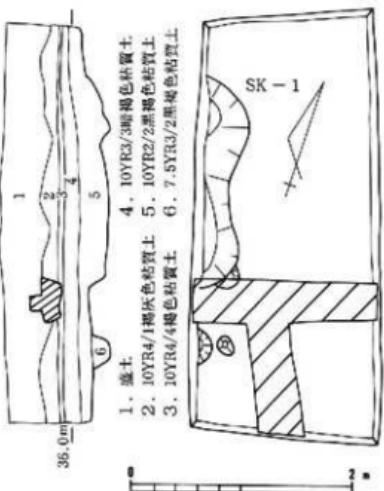
ビット3基ともに、直径約20cm、深さ約10cmで、柱痕は認められなかった。

SK-1 遺構埋土は第5層と同じで、土壌基のような埋めた遺構ではなく、長期間開口してた遺構と思われるが調査地が狭いため詳細は不明である。

出土遺物は第4・5層から須恵器片など出土したが、図化できるものは無かった。



第14図 トレンチ位置図



第15図 トレンチ平・断面図

## V. 豊島南遺跡第5次発掘調査

### 1. はじめに

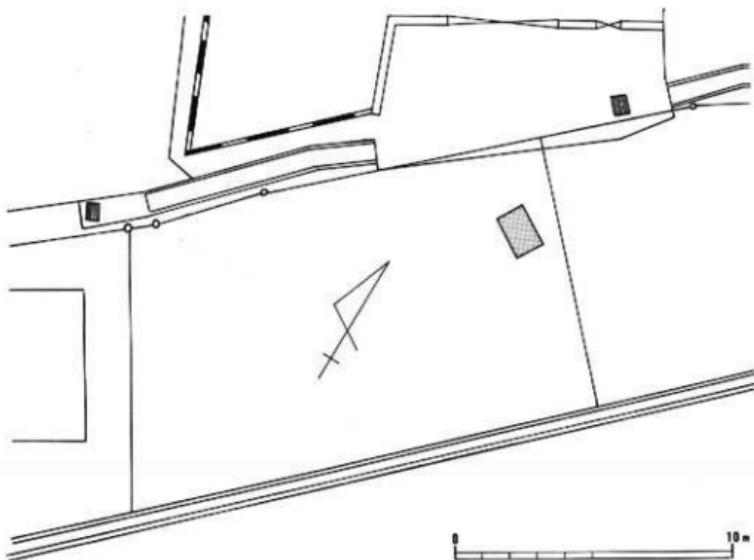
豊島南遺跡は、池田市の南端、豊島南1・2丁目一帯に広がり、西方約800mに猪名川、北方約500mに箕面川を臨む標高約20mの洪積台地の末端部に位置する。

隣接する遺跡としては、東方に宮の前遺跡、弥生土器や須恵器が採集された住吉宮の前遺跡、南方には、古墳時代の自然流路などを検出した蟹池西遺跡があり、弥生時代から古墳時代を中心とする遺跡が多く存在する。

この豊島南遺跡は、昭和55年から昭和56年に池田市教育委員会が実施した分布調査で、須恵器片が採取されたことにより古墳時代を中心とする遺跡であることが確認された。また、昭和60年に大阪府教育委員会が実施した調査では弥生時代後期の溝や、中世の溝などを検出し、本遺跡が長期間にわたって営まれていたことが明らかになり、昭和62年から実施している阪神高速道路大阪池田延伸工事に伴う調査では、縄文時代後期の土器片、弥生時代中期の方形周溝墓2基、古墳時代前期に掘削された溝、竪穴式住居跡、古墳時代中期の方墳跡、古墳時代後期の竪穴式住居跡、同時代の溝、奈良時代と考えられる純柱の掘立柱建物跡、中世の溝などを検出し、本遺跡が縄文時代から中世にわたって営まれていることが判明した。本遺跡はその存在が



第16図 調査地位置図



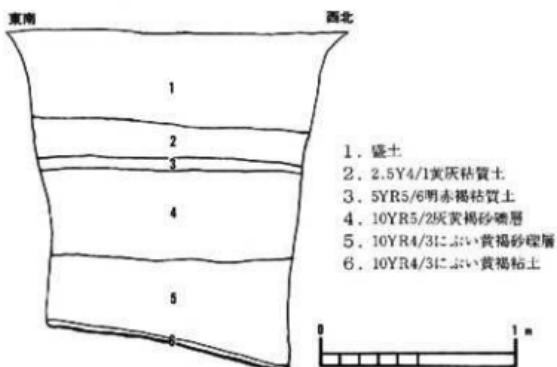
第17図 トレンチ位置図

確認されてまだ日が浅く、現在までの調査で上述した重要な成果があつたものの、不明な点が多く、隣接する宮の前遺跡、住吉宮の前遺跡や螢池西遺跡との関係も不明瞭であり、今後の調査に委ねるべき課題が多く残されている。

## 2. 調査の概要

調査地は本遺跡東端、池田市豊島南1丁目364-3に位置し、個人住宅の増築に伴う事前調査として実施した。

本遺跡の西に隣接する第3次調査地では、古墳時代から平安時代を中心とする3面の造構面及び、遺物包含層を確認しており造構が更に東側へ広がっているものと予想されたため、小規



第18図 トレンチ断面図

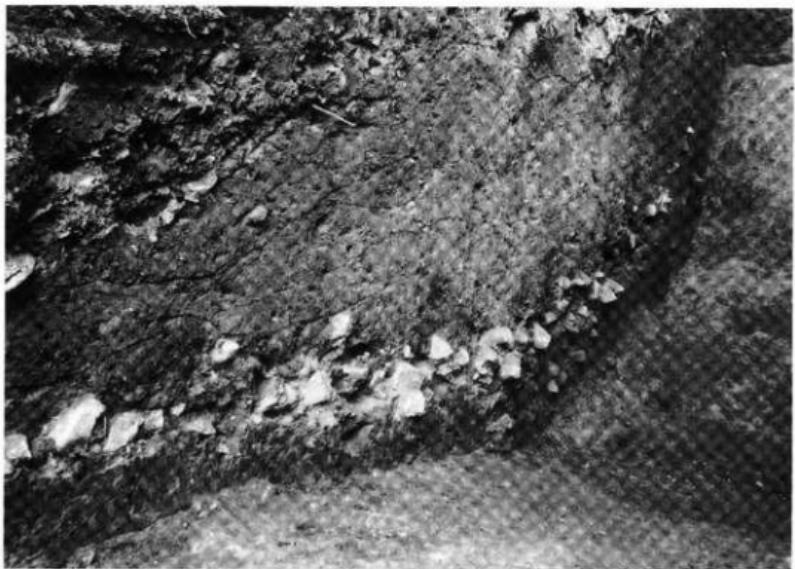
模ながら包含層確認のためのトレンチを設定した。

層序は7層からなり、第1層は庶土、第2層は耕作土、第3層は上層に伴う床土、第4層は灰黄褐色砂疊層、第5層はにぶい黄褐色砂疊層、第6層はにぶい黄褐色粘土層、第7層は暗褐色砂層の地山である。調査地が狭いため不明な点が多いが、第4・5層は、川による堆積層と思われ、第6層は、上層の削平を受けていると思われる。

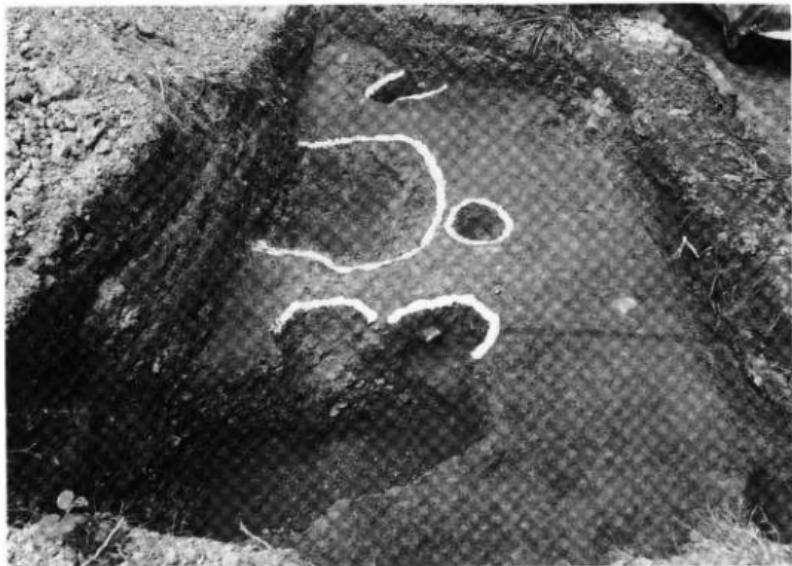
遺構及び遺物は認められなかった。



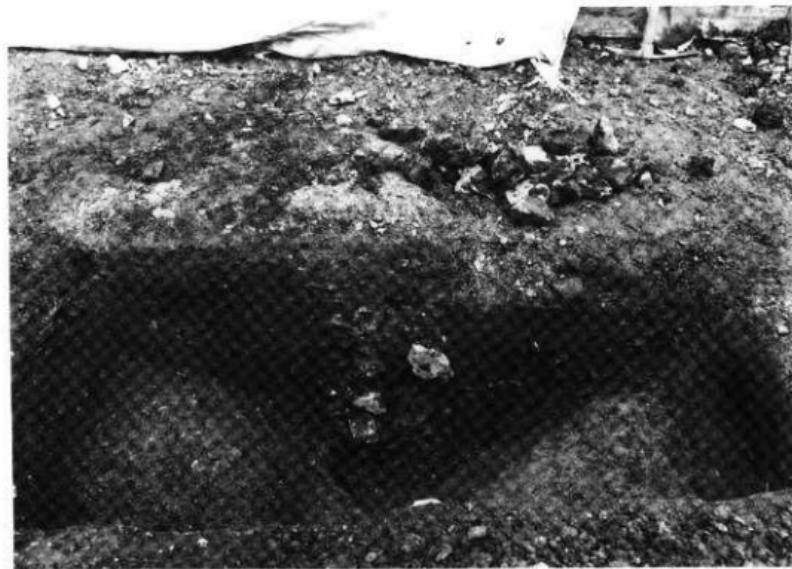
(1) 宇保・猪名津彦神社古墳トレンチ全景(北から)



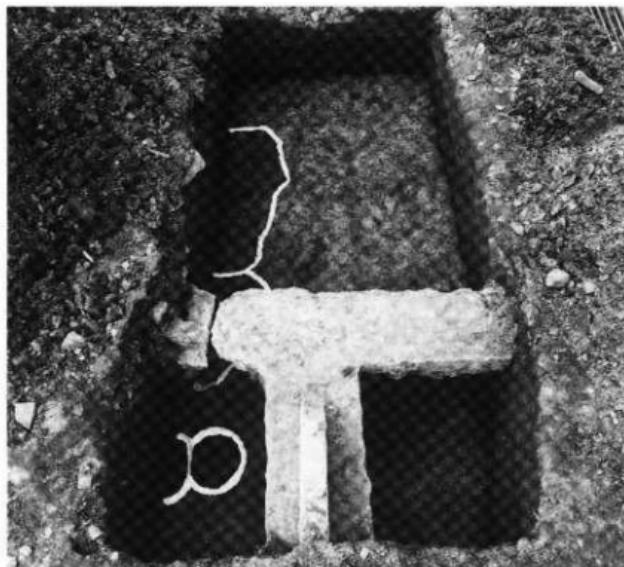
(2) 同上溝断面



(1) 池田城跡90—1次調査地



(2) 池田城跡90—3次調査地



(1) 宮の前遺跡90—4次調査地



(2) 豊島南遺跡第5次調査地

池田市文化財調査報告第13集  
池田市埋蔵文化財発掘調査概報

1990年度

1991年3月

発行 池田市教育委員会  
池田市城南1-1-1  
編集 社会教育課 文化財係  
印刷 やまかつ株式会社